

外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童の育成

-表現の定着を目指した帯活動（Card Chat）と

中間振り返り（Reflection Time）を重視した言語活動の工夫を通して-

前橋市立二之宮小学校 鱈川 道弘

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編では、外国語科の目標に、「言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質、能力を育成すること」とあり、思考力、判断力、表現力等の目標として、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うこと」が挙げられている。また、第 2 章 2（3）には、「話すこと〔やり取り〕イ」の目標として、「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする」ことが示されている。さらに、まえばし学校教育充実指針においてもコミュニケーションを図る楽しさを大切にする外国語教育の充実が求められている。これらのことから、外国語で対話をするための基本的な表現を取り入れながら、身近な話題について自分の思いや考えを伝え合う言語活動を積み重ねていくことが重要だと言える。

児童のアンケート結果から、本学級の児童は、外国語を使って友達と意見を伝え合う楽しさを感じている一方で、やり取りに対して消極的であったり自分の言いたいことがうまく伝わらないことにもどかしさを感じたりしていることも分かった。また、自分自身も指導する上で、児童が自分で伝えたいことを考えたり、気持ちを伝え合ったりする言語活動を十分に確保することができていなかった。これらの課題から、児童が自分で考えながら、外国語でやり取りができるように学習活動を工夫する必要があると考えた。

そこで、本研究では、自分で考えながら対話を続けるための基本的な表現の定着を目指した帯活動（Card Chat）と、中間振り返り（Reflection Time）を重視した言語活動を行うことによって外国語で友達とやり取りをする楽しさを体感し、外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童を育成できると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童を育成するために、表現の定着を目指した帯活動（Card Chat）と中間振り返り（Reflection Time）を重視した言語活動の有効性を実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

外国語科の授業において、以下の手立てを講じることで、外国語を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童を育成できるであろう。

1 表現の定着を目指した帯活動（Card Chat）の工夫【手立て 1】

毎時間の帯活動として、既習表現や対話を続けるための表現を用いて、自分自身に関する

る出来事や気持ちについてやり取りをする。

2 中間振り返り (Reflection Time) を重視した言語活動の工夫【手立て2】

「Model (例示)→Challenge (対話①)→Reflection Time (中間振り返り)→Try again (対話②)」という学習の流れで言語活動を行い、【Reflection Time (中間振り返り)】で表現したいことや困り感を共有し、次の対話に生かすようにする。

IV 実践内容

本研究では、小学校第5学年(20名)の外国語科「Unit5 Where is the post office?」(全8時間)において授業実践を行った。

1 既習表現と対話をつなげるための表現の定着を目指した帯活動(Card Chat)の工夫【手立て1】の概要

既習表現を使って身近で簡単な事柄についてペアで自由に対話をする活動を、単元を通して授業の冒頭に帯活動として設けた。毎時間行うことで、児童が繰り返し何度も語彙や表現に慣れ親しむことができるようにした。

テーマとしては1学期に学習した「好きな○○」のカードから始め、前単元で学習した「ほしいもの・したいこと」などの既習表現を取り上げた。児童は、テーマが書いてあるカード(p.89資料1参照)を引きながら互いに質問をしたり答えたりして、自分自身に関する実際の出来事や気持ちなどについて伝え合った(図1)。



図1 対話をする様子

一つのテーマについて1分間やり取りを続ける。そうすることで、児童はうまく対話が続かないもどかしさから、対話の進め方や表現方法を知りたいという思いをもつことができると考えた。そして、児童の姿に応じて対話をつなげるための表現である「相づちを打つ」「繰り返しの表現を入れる」「感想を一言付け足す」などを段階的に示し、指導を行うこととした(図2)。また、児童が安心して取り組むことができるように、分からない語彙や表現は日本語を使ってもよいことを伝えた。活動中は、机間支援を行い、良い点や課題となる点を見取り、ALTと情報を共有し、次時の指導内容に反映させた。

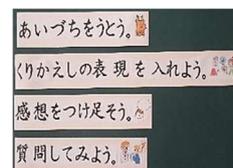


図2 対話をつなげるための表現

2 中間振り返り (Reflection Time) を重視した言語活動の工夫【手立て2】の概要

本単元では、前橋市を詳しく知らないALTのために、市内のお勧めしたいお店や場所を紹介し、そこまでの経路を学習者用端末を活用して道案内することを単元のゴールとした。児童が自分の考えや気持ちを伝え合うための手立てとして、【Reflection Time (中間振り返り)】を重視した言語活動を行った(表1)。

表1 毎時間の授業の流れ

1.Model ALTとJTEのやり取りの例示
2.Challenge(対話①) 自分の考えや気持ちの表現
3.Reflection Time(中間振り返り) 表現したいこと・困り感の共有
4.Try again(対話②) Reflectionを踏まえもう一度表現

まず、ALTとのやり取り【Model】を演示し、目的や場面、出だしのフレーズ等を提示した。その後、児童がペアになり場面や状況を考えながら対話した【Challenge (対話①)】。その後、【Challenge (対話①)】において、児童が言いたかったけれど言えなかった表現やコミュニケーションの取り方に関する困り感について全員で考える時間を設けた【Reflection Time (中間振り返り)】。そこでは、クラウド型ソフトウェア(以下、オクリ

ンク) を活用し、言いたかった表現を既習表現で言い換えることはできないか、どんな語彙なら自分の言いたいことを表現できるかなどを話し合った (p. 89 資料2 参照)。その際、できるだけ児童の表現を生かし、考えようとする姿勢を引き出すようにした。そして新しく得た語彙や表現を【Try again (対話②)】に生かせるようにした。また、児童から出された語彙や表現をカードにして毎時間掲示することで (図3)、児童が自ら、既習・新出の語彙や表現を組み合わせ、言葉を選択しながら相手にたずねたいことや言いたいことを考えながらやり取りができるようになることを考えた。



図3 児童から出された語彙

3 結果と考察【手立て1・2】

〈手立て1における変容から〉

今回の研究において、A児のペアの対話を記録した。A児は学習に前向きに取り組み、学んできたことを着実に習得してきた児童である。しかし、初めは外国語を話すことにためらいがあり、

表2 対話の様子 (2/8時間目)

テーマ:好きな色
 B: What color do you like?
 A: Rainbow…
 B: Why rainbow?
 A: …きれいって何て言う?
 B: Beautifulだよ。
 A: そっか。…Beautiful.
 …What color do you like?
 B: えーつと、White.
 A: Nice! Why?
 B: だって白は透明だから。

表3 対話の様子 (7/8時間目)

テーマ:学びたい教科
 A: What do you want to study?
 B: I want to study 体育…P.E.
 A: Oh, you like P.E. ①
 B: I want to play soccer.
 I like Ronaldo very much.
 A: Really? Oh, you can play soccer! ②
 B: How about you?
 A: I want to study…science.
 I want to be a 歯科衛生士。

外国語で何と云えばよいのか分からない場面で、日本語を話してしまったり、沈黙したまま時間が過ぎてしまったりすることがあった (表2)。

A児は「Nice.」「Good.」といった簡単な相づちに慣れるだけでなく、相手であるB児の話す内容に合わせて日本語で「本当に?」「すごいね」といった反応をしていたので、第3時に「Really?」「I see.」「Good job.」などの表現を活用することを促した。その後、Card Chatだけでなく、ALTの話聞く際に「Really?」や「I see.」など状況に合った反応を返すようになった。

第4時には「How about you?」やテーマとなるターゲットセンテンスを使って相手に質問をすることをクラス全体に促し、対話を続ける工夫を図った。第4時の対話では、A児はB児に質問をすることができなかったが、他のペアの様子を見て、5時間目に「How about you?」を使って質問をしていた。

第6時には『繰り返し』や『一言感想を付け足す』ように促した。B児に「What snack do you like?」と質問し、「I like ポテチ.」と答えが返ってくると、「Oh, you like ポテチ.」とくり返し、「It's delicious.」と一言感想を付け足すことができた。

Card Chat に繰り返し取り組むことでA児は対話を続けるための表現を増やすことができ、第7時では相手の発話を受けて、「Oh,」と『相づち』を打った上で、「you like P.E.」と『繰り返し』の表現を入れたり、「You can play soccer.」と既習表現のcanを用いて表現したりすることができた (表3 下線①②)。さらに、ほとんど日本語を使わなくても、外国語で自分の考えや気持ちを伝えることができるようになった。

これらのことから、既習表現を使って身近で簡単な事柄についてペアで対話をする帯活動を繰り返し行い、児童の学習状況に応じて対話を続ける表現を取り入れていったことは、児童が考えながら対話を続けるために有効であったと考えられる。

〈手立て2における変容から〉

お勧めしたいお店をペアで紹介し合う活動では、【Challenge (対話①)】を終えた後、A

児は、「駐車場が5台しかない。」ことをどう表現したらよいか迷い、オクリンクに記入した。その後の【Reflection Time (中間振り返り)】で、「駐車場」は「parking」、「5台しか」は「only 5 cars」と言えばよいことを知った(表4)。

そして【Try again (対話②)】で、「The parking is only 5 cars.」と駐車場についての情報を外国語で伝えたり、他の児童から出された「buy (買う)」と「take out (持ち帰る)」という単語をお店の説明に取り入れたりしていた(表5)。

表4 Challenge (対話①)

A: This is (店の名前). You can 買うことと …持ち帰れる. B: Nice! A: I like fruits sand. B: Me too. A: It's delicious.
--

表5 Try again (対話②)

A: This is (店の名前). You can buy and take out . B: Nice! A: I like fruits sand. B: Me too. A: It's delicious. The parking is only 5 cars. B: Oh, no!
--

他の児童においても、Card Chat で定着した相づち表現、Reflection Time で確認した表現、児童から出された表現等を活用して【Try again (対話②)】に生かす姿が見られた。

授業の振り返りでは、「最初は外国語でお店を紹介するのはできないと思ったけれど、知っている表現や新しく習った表現を使ってもう1回やってみたら、うまく伝わった。緊張せずにできた。」「自分の言いたいことが積極的に言えるようになった。」「だんだん外国語を追加してより分かりやすく友達と伝え合うことができた。」など、自分自身の成長を振り返る記述が多く見られた。

単元終了後のアンケートでは、8割以上の児童が外国語のやり取りの中で、相づちや繰り返しの表現を使って対話を続けることができたと回答している。また、9割以上の児童が2学期初めよりも楽しみながら、そして長くやり取りを続けることができるようになったと回答した。さらに、授業の振り返りでは、「自分の言いたいことが外国語で言えるようになってうれしかった。」「自分の言いたいことが積極的に言えるようになった。」といった記述が見られた。

中間振り返りを重視した言語活動を行ったことで、児童は自分の考えや気持ちを伝え合うことができたことと自身の成長を実感していることが分かる。これは対話①で感じた困り感を中間振り返りで共有したことで、どんな表現を使えばより自分の思いや考えを伝えられるかを知り、児童が自信をもって対話②に取り組むことができたからだと考えられる。

V 研究のまとめ

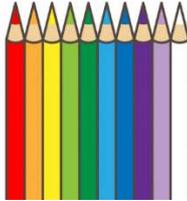
1 研究の成果

- Card Chat を帯活動で行ったことで、日本語を使わずに相づちや繰り返し表現を使って会話を長く続けることができる児童が増えた。
- 【Reflection Time】で、表現したいことを全員で考える時間を設けたことで、言いたかった表現を取り入れながら、自分の考えや気持ちを伝え合う姿が多く見られた。

2 今後の課題

- 本年度は、ペアを固定しての実践だったが、意図的にペアを替えながら言語活動を行えば、児童はより多くの表現に触れることができるのではないかと考える。
- 日本語では自分の考えを発表できるが、外国語になると委縮してしまう児童もいることから、個々の活動の様子を見取り、個に応じた支援を工夫する必要がある。

【資料1】 Card Chat で用いたカードの一例

<p>好きな飲み物</p> 	<p>好きな歌</p> 	<p>好きな教科</p> 
<p>好きな本</p> 	<p>好きな動物</p> 	<p>好きな色</p> 
<p>なりたい職業</p> 	<p>今ほしいもの</p> 	<p>今食べたいもの</p> 
<p>Can you ○○? (～できる?)</p> 	<p>What is your treasure? (宝物は?)</p> 	<p>Do you like ○○? (～は好き?)</p> 

【資料2①】 Reflection Time で児童が言いたかった表現の一覧 (オクリンク)

一覧表示
カスタム表示
評価表示

LIVE モニタリング
MYボード
提出BOX

すべての提出物を子どもに公開

お母さんとおばあちゃんからいるがいえない	あいらいくがこない。	こまかいことがいえなかった	あまし	「～にいったことある」と言えなかった	言いたい事が全然英言で言えない
ぜひいってみたいところをいってほしい	わからない単語がある	ここだけ食べれる英言ある?	外国のおがらの英語	すこく	質問と答えてほしい
それはおいしい	買物が言えない車の車場も	あたらしいところがある	魚かきとさき変わるや他にもあるものはたくさんあるなど	景色と味の意味	うんとうんととスライムでいい
言葉がよくわかる	うしやひつびが英語で言えなかった				

【資料2②】 Reflection Time で児童が言いたかった表現の一覧（オクリンク）

好きな場所 がいえない	じごが、えい ごういふい	おちつくが えいごでい えな	アイスクリムの 大きい数(5,6)が いえない	遊ぶという英 語が分かんない	「ワクワクする」を英 語で話せな い。
おねえさん、何 もいえない	思っている事が言えない	好きな場所 とこの英語?	乗り物の名前 どういふはばい	未提出	うまくいき 返せなし。
自分がしゃべ れな	「おちつく」の言 方がかたや	東京の英 語が分か らな	たしごきあまり 知らないから 話が続かない	エレベーター の中、何?	あまり話しが つづかなくなっ て
ついまいづ ちが、おねえ さん	あいづちが多人使 えな				

【資料3】 単元終了後の児童の振り返り用紙

★Card Chat について

友達にいいたいことか はなせるようになった。 (英語で)	好きなことをしょうじき にいえるようになった。
2学期の最初は何も いえないで、つづいて いえるようになった。	友達と長時間英語を使 って会話ができるよ うになった。
好きなもの、ほしい物 の質問と答えをいえる ようになった。	何が好きと言げんを うまくみんなに えられました。
しずかになんか いえるようになった。	最初は1文で終り しかたが、今は30秒 くらいは、 かわかなくないで 出来るようになった。

★Reflection Time について

自分の言いた ことを英語 でいえた のでよかった。	前より英語を ういかに 分りやすく 説明できた。	自分の言いた ことをい えな	パズケーキが 好きが つかえな けど エリン先生 にえな ことが いえた。
やってみて、色 んな ことを いえる ようになった。	前より英語 の 介の 上手 になった。	すらすらは むずかし けど、な りの人と 英語で かわか つづく ように できた。 ほし どが 英語 でい える よ うに な った。	みんな と い っ し よ に 練 習 し て い え な か つ た こ と を い え る よ う に な つ た か ら
道案内が上手 になった。 自分の言 いた い 事 が せ ま く 的 に い え る よ う に な つ た。			知らない、 分らない 言葉が、 いえる よ う に な つ た。

〈参考文献〉

- 群馬県教育委員会 (2019). たくましく生きる力をはぐくむ はばたく群馬の指導プランⅡ
- 国立教育政策研究所(2020). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 東洋館出版
- 文部科学省 (2018). 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編 開隆堂出版
- 山口 美穂 (2019). 身近な話題で楽しく話せる Small Talk 月別メニュー88 明治図書出版